

活動概要(2017年2月)

① 農家グループ選定プロセスの実施

■ Aqqaba Extension Women Sub-Group(トゥバス)へのヒアリング(2017/2/6)

EVAP-1 の対象農家グループの中から、プロジェクトへの参加機会が少なかった女性メンバーを中心に、サブグループとして EVAP-2 への参加を目的に新規に結成されたグループである。

農家グループ選定プロセスを通じて、EVAP-1 の対象ではなかった農民グループという条件で選定したところ、以下のグループが選定された。

- 若手農民グループ
- 女性農民グループ
- ベドウィン系統のグループ
- 農業があまり盛んでない地域の農家グループ

そのことから、パレスチナでは、発言力の強い男性農民グループに比べて、それらの農民はドナーの支援や普及の対象となりにくい傾向が伺えた。多くのドナー支援があるパレスチナにおいて、EVAP-2 では普及の手が届かなかった農家層をターゲットとする必要があると感じた(普及のすきま)。



■ Bardala Extension Women Group(トゥバス)へのヒアリング(2017/2/6)

集落にある3つの女性グループの中から、EVAP-2 の活動に関心のあるメンバーを横断的に集めたグループである。

パレスチナでは、一つの農家グループが多様なメンバー(大規模・中小規模、野菜・果樹・畜産)で構成されることが多いが、同じ地域にある複数のグループからプロジェクトのコンセプトに合意したメンバーを横断的に集めることで、メンバーが比較的均質のグループとなった。パレスチナにおける対象農家グループ選定におけるモデルケースになる可能性がある。リーダーシップのある女性(写真の青い服の女性)が代表者になり、グループの意見をうまくまとめてくれた。



② 県農業局を対象とするEVAP 普及パッケージに係るTOT

- ジェリコ DOA(2017/2/8)
- トゥバス DOA(2017/2/9)
- ナブルス DOA(2017/2/12)

県農業局を対象に、EVAP 普及パッケージに関する理解を深めるための TOT を実施した。主な内容は、プロジェクトのコンセプトに対する説明、2月中に実施予定の Awareness Creation Tour(グッドプラクティス農家視察ツアー)の実施手順に関する説明であった。普及員から出たアイデアをもとに、実施手順を修正した。また、活動の最後に普及員も含めて振り返りを行い、活動手順を改善することとした。



③ ベドウィン農民へのヒアリング(2017/2/8)

ベドウィン農民の主な収入源は加工した乳製品(チーズやヨーグルト等)です。卸売り市場を通さず、直接小売業者に販売しているとのことであった。コールドチェーンが発達していないパレスチナの地方部では、貯蔵がしにくい乳製品は、小売業者への直接取引が多い傾向が見られる。EVAP-2 は野菜以外も対象にしているので、対象とする農産物毎に市場の情報の取り方も工夫する必要がある。



④ Awareness Creation Tour のための参加型計画ワークショップ

EVAP-2 では、前フェーズの対象農家からの意見をもとに、普及活動の最初に「Awareness Creation Tour」として、グッドプラクティス農家(篤農家)の視察ツアーを開催することにした。事前に作成した 21 のグッドプラクティス農家の事例紹介シートをもとに、**農家グループ自身がツアーの行き先を選択し、スケジュールを立てた**。ワークショップのファシリテーションは、県農業局の普及員が担当した。普段接することのない他地域の農家を視察できるということで、ワークショップは大変盛り上がった。

パレスチナでは男性農家グループ、女性農家グループがそれぞれ別々に存在する傾向があるため、EVAP-2 では、対象農家グループを選定する際に、地域に存在する各グループの割合(農家グループ全体の 25%程度が女性グループ)を考慮した。そのためワークショップも別々に開催することになったが、両グループで選ばれたツアーの行き先に傾向があることがわかった。そのことから、**男女別々のグループでワークショップを開催したことで、それぞれのグループのニーズを引き出すことができたのではないかと考えられる**。

グループの種別	選定されたツアーの行き先	傾向
男性農家グループ	小型キュウリの吊り栽培 投入資材のグループ購入 成育ステージに合せたヒツジの飼育 在来カボチャの栽培 エンドウマメの吊り栽培(男女共通) トマトの抑制栽培(男女共通) 紫ニンジン栽培(男女共通)	エンドウマメやキュウリといった規模の大きく収入総額が大きい栽培体系に関心が高いことが伺えました。
女性農家グループ	グンデリア(ハーブの一種)の栽培 タイム(ハーブの一種)の栽培 農産物を使った学校給食ビジネス チーズの加工・販売 エンドウマメの吊り栽培(男女共通) トマトの抑制栽培(男女共通) 紫ニンジン栽培(男女共通)	労力がかからず小規模で栽培できるハーブや空いた時間を有効に活用できる学校給食や乳製品加工に関心が高いことが伺えました。

活動の費用対効果及び普及活動の成果の拡大(普及のアウトリーチ拡大)のために、ツアーの当日は、**準備するバスの定員を超えない範囲で、グループ外の農民の参加も可能**ということを伝えた。

■ Aqqaba Extension Women Sub-group(トゥバス)(2017/2/13)

EVAP-1 の活動に参加していなかった女性農民により構成されるサブグループ。

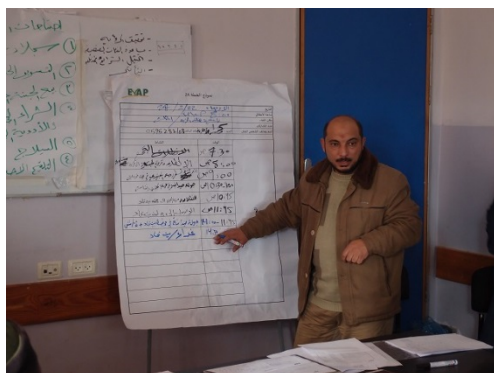
ワークショップを通じて、ハーブ栽培や乳製品加工など、男性メンバーとは異なる技術に関心が高いことがわかった。



■ Al-Musafah Extension Sub-Group(ジェリコ) (2017/2/14)

唯一の畜産農家グループ。

人工授精に興味があるとのことで、農業庁の試験場の視察も行き先に加えた。



■ Al Bathan Mother's School Group(ナブルス)(2017/2/15)

農業のあまり盛んでない地域から選ばれた女性農家グループ。

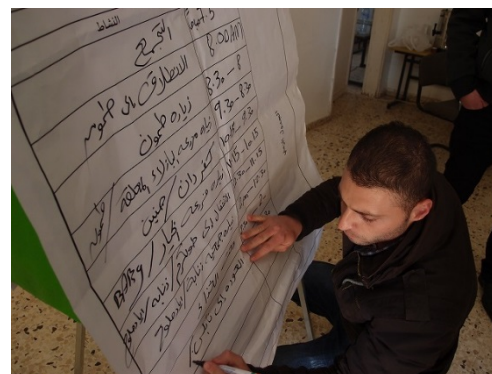
一部の農家がビニールハウスを持っているので、トマトの抑制栽培にも関心が高いことが伺えた。



■ Frosh Beit Dajan Extension Sub-Group(ナブルス)(2017/2/15)

地域の若手農家により構成されるグループ。

エンドウマメや小型キュウリなど、自分達が所有しているビニールハウスを活用できる集約的な栽培技術に関心が高いことが伺えた。



■ Jeftlik Farmers Extension Group(ジェリコ)(2017/2/16)

ベドウィン系の野菜栽培農家グループ。

露地栽培による作物の多様化や出荷時期をずらした抑制・促成栽培に関心が高いことが伺えた。



■ Bardala Extension Women Group(トウバス)(2017/2/16)

農業生産地域にある女性農家グループ。イスラエルとの境界に近く、イスラエルに出荷している農家も多いため、ハーブ栽培だけでなく、男性グループと同じエンドウマメや小型キュウリの栽培技術にも関心が高いことが伺えた。



コラム:EVAP 普及パッケージを通じた「情報の活用」に係る技術支援

日本の農業では、「情報の活用」が営農計画を立てる上で必須であると言われている。必要な情報は外部情報と内部情報に区分される。外部情報としては、市場情報、栽培技術に係る情報、気候・自然環境の情報、支援プログラム（補助金や優遇政策）の情報、農業資材の情報、農業金融に係る情報がある。また、内部情報としては、営農記録情報、労働力、所有する資機材の情報がある。外部情報については外部から継続的に取得する必要がある、内部情報については、自身の営農活動の振り返りを行い、認識を深める必要がある。

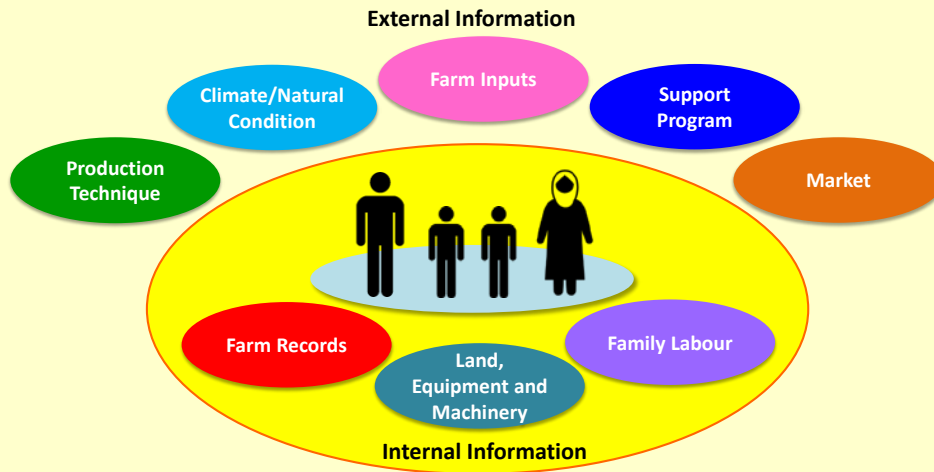


図 営農計画策定に必要な内部情報と外部情報

パレスチナの農家は、日本と同様に、これらの多様な情報をもとに営農計画を立てる段階にきていると考えられる。イスラエルから高品質の農作物が大量に流入し、パレスチナ域内にも大規模な農家が多数存在する状況において、小規模農家が収益を高めるためには、これらの情報を積極的に活用していかなくてはならない。このうち、農業金融の情報については、イスラム圏では借金をすることはあまりよいとされないため農家のニーズも踏まえたうえで、対応には留意する必要がある。

EVAP-2 では、普及パッケージを通じて、これらの情報(情報ソースや情報の入手方法も含む。)を農家グループに蓄積することで、収益の増加と安定化を目指したいと考えている。今後、活動を組み立てていく際に、この情報の蓄積を考慮する必要があると認識している。

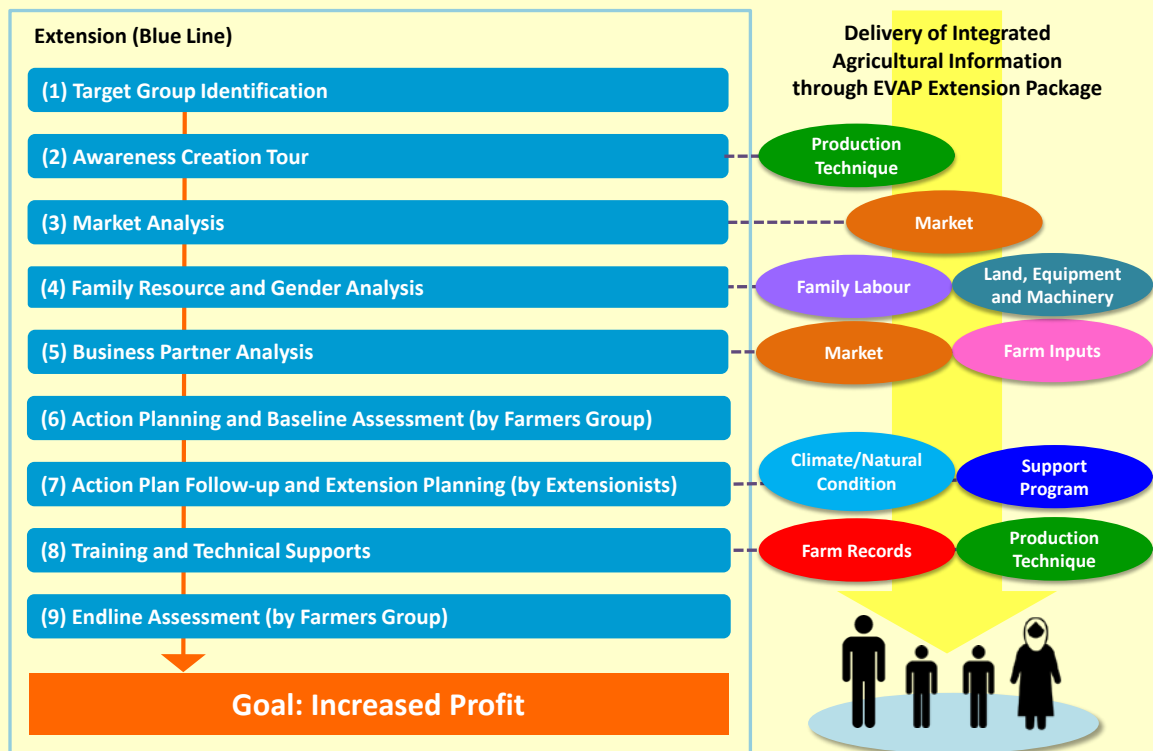


図 EVAP 普及パッケージを通じた農家への情報の蓄積

⑤ 第2回モニタリングタスクフォース会議(2017/2/19)

モニタリングシート(Version2)を作成した。活動の進捗を確認するとともに、ジェンダー配慮の取り組みについても記述を追加した。

第2回モニタリングタスクフォース会合を開催した。会合では、タスクフォースの役割を確認した後、モニタリングシートの内容について説明した。カウンターパート側から修正点などのコメントを受け、指摘事項をモニタリングシートに反映させた。

PDM に設定されている指標の内容および入手方法についても、プロジェクトチーム内で議論し、情報を入手するために必要なアクションをまとめた。



⑥ 第2回普及タスクフォース会議(2017/2/19)

第2回普及タスクフォース会議を開催し、EVAP 普及パッケージの周知を図りました。会議で出た主な意見は次のとおりであった。

- ビニールハウス等、営農に活用できる資機材を持っているのに、有効に活用していない農家が多いので、プロジェクトを通じて、改善してほしい。
- MOA でサイレージ作りや家畜繁殖における人工授精(AI)を取り扱ったビデオを作成している。EVAP-2 を通じて、ウェブサイトで公開してほしい。マスメディア局では撮影機材を持っていない。ビデオ機材があればプロジェクトの活動を撮影し、ウェブサイトやラジオ等で農家向けに発信することも可能になるため支援してほしい。
- Market Analysis では、下流の販路だけでなく、上流の資材業者(苗業者や飼料業者等)も考慮するべきである。
- 一般に農家は収益を公言しないので、どのようにベースラインデータを取るのか工夫が必要である。
- EVAP-1 での成功事例も含めて、成功のストーリーを積み重ね積極的に発信することで、農家の参加は増加するだろう。
- 女性農民の方が男性農民よりも EVAP-2 に関する関心が高い。男性農民は資機材をもらうことばかりに関心があるが、女性は今まで市場情報や技術研修へのアクセスが限られていたため、よりモチベーションが高いのだろう。



⑦ Awareness Creation Tour の開催

■ Al-Musafah Extension Sub-Group(ジェリコ)(2017/2/22)

参加者は視察先の農家に積極的に質問をして、熱心にメモをとっていた。参加した農家からは、**すぐにも適用できそうな技術が多くあり、EVAP-2 でぜひ技術研修をやってほしい**との意見があった。

視察を通じて、農家の関心が高い技術として、飼育ステージ毎の飼料や飼育方法の改良、家畜薬の適正使用方法であることがわかった。

活動を通じて県農業局の普及員も農家の「**本当の技術ニーズ**」を把握することができた。



■ Aqqaba Extension Women Sub-group(トゥバス)(2017/2/23)

ゲンデリア(ハーブ)の栽培農家グループ、学校給食ビジネスを行っている農家グループとの間で活発な意見交換が行われた。また、視察先の農家と電話番号の交換も行われ、農家同士のネットワークが広がった。

参加者からは、自分達と同じレベルの農家の経験談を聞くことで、自分達の出来ること出来ないことがわかり、出来ないことについて、EVAP-2で技術研修をやってほしいとの意見があった。参加した農業庁職員からは、今までは科学的な説明による技術研修を多く実施していたが、農家同士の意見交換では実践的な内容に集中していたとの意見もあった。また、ツアーの受入先となった第2サイクルの県(カルキリヤ、ジェニン、トゥルカレム)とも、EVAP-2の活動内容の共有ができた。



■ Al Bathan Mother's School Group(ナブルス)(2017/2/27)

ビニールハウスを持つ農家が数名参加していたが、マーケットの収益性を見込んだトマトの抑制栽培をしている農家からの話を聞いて、自身のもつビニールハウスが有効に活用されていないことに気づいた様子であった。

子供連れの参加者が多く、動き回るため、参加者が視察に集中できるように、「ぬりえコーナー」を設けた。子供たちはぬりえに集中して取り組んでいました。費用もほとんどかからず、大変効果的であった。

